

# 皮膚・頭頸部疾患

科目責任者 井 川 健  
学年 6 学年

## I. 前 文

これから国家試験を向かえる6学年に対して皮膚、耳鼻咽喉、歯、口腔、眼の領域の疾患を今一度、重要なポイントに焦点を当て講義を行う。講義は4学年までの基本的事項を中心とした基礎編から一歩進んだ上級編となるが、この領域に登場する臓器は触覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚の五感に関わり、その他の平衡感覚や外界からの保護、呼吸、咀嚼などの機能を持ち、深く学べば大変興味深い分野である。

## II. 学修の到達目標

各科の講義到達目標に準じる。

## III. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

- ・各科の講義学習内容に準じ事前に学習内容を把握し理解を深めておく（15分程度）。
- ・事前学習は予習用資料を配信するので必ず予習すること。
- ・講義当日この予習資料より小テストを行い、その結果は総合成績にも反映されます（30分程度）。
- ・事後学習は各科の学習内容に対し、さらに理解を深めておく。

## IV. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業形式（事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	30	火	2	口腔疾患・口腔ケア	口 腔 外 科 学 川 又 均	1
2		30	火	3	国試対策Ⅰ（感染症）	皮 膚 科 生 嶋 岡 弥	1
3		30	火	4	国試対策（耳鼻咽喉・頭頸部外科）	耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科 学 中 山 次 久	1
4		30	火	5	国試対策（眼科）	眼 科 正 妹 尾	1
5		30	火	7	国試対策Ⅱ（悪性腫瘍）	皮 膚 科 寿 塚 田 鏡	1

## V. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験は60点以上。講義への出席は2/3以上。

## VI. 医師国家試験出題基準（令和6年版）における区分

- ・医学総論Ⅲ 2皮膚・頭頸部・感覚器・発声器
- ・医学各論Ⅲ 皮膚・頭頸部疾患

## VII. 質問への対応方法

随時、受け付ける。ただし、事前に秘書を通じてアポイントをとること。

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

随時質問を受け付ける。

ただし，事前に秘書を通じてアポイントをとること。